

|| 企業調査レポート ||

ノムラシシステムコーポレーション

3940 東証 1 部

[企業情報はこちら >>>](#)

2019 年 10 月 18 日 (金)

執筆：客員アナリスト

水野文也

FISCO Ltd. Analyst **Fumiya Mizuno**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

■ 業績動向

2019年12月期第2四半期決算は想定以上の利益水準で着地

ノムラシステムコーポレーション<3940>は、1986年2月に設立され、企業のオープン化コンサルティング業務、それに関連するソリューション提供業務などを展開し、発展を遂げてきた。ITが急速に進化する時代の流れにうまく乗り、ソフトウェア設計・制作請負中心の事業構造から、ERP（Enterprise Resource Planning：基幹系統合システム）パッケージ導入におけるコンサルティング業務に経営資源をシフトしている。

同社の次世代戦略室では、ライセンス販売を積み重ね、システム更新需要等で安定的に収益を上げるビジネスのストック化を目指す。ストックビジネスが増えれば、中長期的に着実に業績がアップするシナリオが描けるようになる。

民間調査機関が試算した国内ERP市場は、年平均成長率が8%。さらに、クラウド市場やビッグデータ市場も拡大が見込まれており、コンサルティング企業として同社の成長余地は大きいと言えよう。

同社の事業内容はSAP導入コンサルティング、SAP保守サポートセンター運営、Webシステム開発コンサルティング、情報サイトコンサルティングなどで構成されるが、2001年にSAP<SAP>とサービスパートナー契約を結んだことが飛躍するきっかけになった。2009年にはSAPのチャネル・パートナーとなり、SAP ERPのスペシャリスト集団として収益を伸ばし、2016年9月に東京証券取引所JASDAQ市場への上場を果たし、2018年3月には同第2部市場に上場。2018年6月には早くも1部市場に指定替えとなり、信頼度の高まりから受注が拡大している。

2019年12月期第2四半期（1月～6月）決算は、売上高が1,229百万円（前年同期比2.7%減）、営業利益173百万円（同9.1%減）、経常利益182百万円（同6.7%減）、四半期純利益125百万円（同0.8%増）となった。

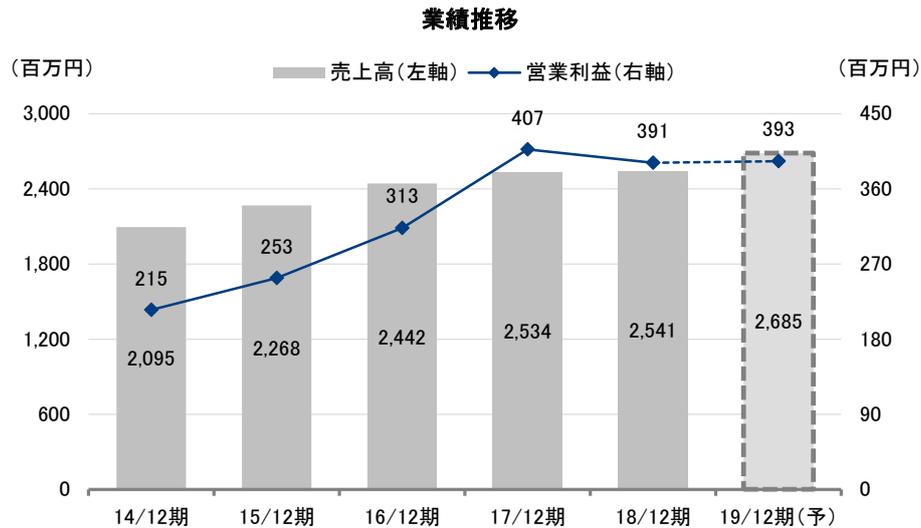
期初に営業利益は133百万円を予想していたため、上振れして着地した。プライム（クライアントから直接受注し、全工程を同社のコンサルタントが担当する）案件にシフトする一方、既存のFIS（Function Implement Service）が減少。ただ、FIS案件は外注コストがかかるため、全体の売上は減少しながらも、利益率が改善した。全体の売上高に占めるプライム比率は前年同期から2%アップし、30%となっている。

さらに、減益の要因としては、次世代戦略室のRPA（Robotic Process Automotion）事業への先行投資の影響も挙げられるだろう。RPA事業への先行投資は前向きな投資分による利益への影響であり、不安材料とはならない。

今後も、利益率改善を図るために、プライム案件、準プライム案件の比重を高めていく。従来型のFIS案件のように、プライムベンダーから依頼を受け、支援する形で部分的に対応することと比べて、売上総利益率に10ポイントほどの差が生じることになる。プライム案件の受注確保が業績向上のポイントだ。

業績動向

さらに、次世代戦略室では、ライセンス販売を積み重ね、システム更新需要等で安定的に収益を上げるビジネスのストック化を目指す。ストックビジネスが増えれば、中長期的に着実に業績がアップするシナリオが描けるようになる。



出所：決算短信よりフィスコ作成

一方、2019年12月期通期の見通しは、売上高は2,685百万円（前期比5.7%増）、営業利益は393百万円（同0.5%増）、経常利益は393百万円（同3.2%減）、当期純利益は268百万円（同3.1%減）と、当初の計画を変更していない。

受注は順調に拡大している一方、プライム案件も着実に積み上がる見込み。営業利益は第2四半期累計で従来予想に対して3割アップとなったため、大きなアクシデントでもない限り上方修正が有望と言えそうだ。

(単位：百万円)

決算期	売上高	前期比	営業利益	前期比	経常利益	前期比	純利益	前期比	EPS (円)
16/12期	2,442	7.7%	313	23.4%	312	19.8%	194	19.5%	125.84
17/12期	2,534	3.8%	407	30.3%	405	29.9%	299	53.7%	53.60
18/12期	2,541	0.3%	391	-4.0%	406	0.3%	277	-7.4%	48.97
19/12期(予)	2,685	5.7%	393	0.5%	393	-3.2%	268	-3.1%	47.02

出所：決算短信よりフィスコ作成

■ 当面の事業展開

後継製品にリプレースする 2025 年までを飛躍の期間に

現在の主力である「SAP ERP 6.0」は 2025 年にメンテナンス終了予定となっており、同社では、「SAP S/4HANA」へ完全切替えとなる 2025 年までを大きく成長する 8 年として位置付けている。その時点で、「SAP S/4HANA」を土台に、SAP ERP とビッグデータ分析、AI、IoT、クラウドの組み合わせによる競合優位を確立する。そのためには、レベルの高い人材育成、採用が課題となりそうだ。同社は、成長戦略を進めるため人材投資を積極的に行い、新卒社員を育てて戦力化させ、着実にビジネスを遂行していく方針である。

次世代戦略室により RPA 事業を推進

さらに、デジタルテクノロジーを活用したサービスを展開していくため次世代戦略室の活動に力を注いでいる。持続的成長と企業価値向上の実現を加速させることを目指し、RPA サービス推進を展開中である。次世代戦略室単独での引き合いが活性化しているもようで、今後は、ストックビジネスで、受注拡大につなげていく。

■ 株主還元

配当性向 40% 以上で安定的に実施

無借金経営、事業規模に照らすとキャッシュリッチな企業と見ることができる。2019 年 12 月期第 2 四半期末の自己資本比率は 89.3% と極めて高い。2019 年 12 月期の配当見通しは 11 円だが、1 対 2 株式分割を 2019 年 8 月 1 日付で実施しているため、前年実績 22 円配を事実上継続する意向だ。会社側では配当性向を 40% 以上とし、安定配当を継続的に行う考えを明らかにしている。

免責事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-11-9

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（情報配信部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp